

令和6年度

御所小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自分の思いや考えを主体的に表現することのできる
児童の育成を目指した指導の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
橋本 健太	校長：大坂 喜昭 教頭：久次米 昌敏 研修主任：橋本 健太 学力向上推進部：牛田 千暁 佃 菜々子 渡辺 早紀

校長

大坂 喜昭

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を設け、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算など、基礎的・基本的な問題に対しては、前向きに課題に取り組むことができる。 ○作文帳の活用により、進んで長い文章を書くことのできる児童が増えてきている。 ●語彙が少なく、文章表現が単調である。 ●読書量に個人差がある。また、家庭読書の習慣が身に付いていない。	①基礎的・基本的な知識・技能について、学年相応の力を身に付けている。 ②語彙を増やすとともに、自分の思いや考えを適切に表現することができる。 ③学校でも家庭でも、読書をする習慣を身に付けている。	①単元ごとの小テストや前単元の復習を行う機会を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ②各学年の実態に応じた作文指導や語彙を増やす指導を行い、「書くスキル」の定着を図る。 ③「読書通帳」の活用や「わくわく読書デー」を活用し、休み時間や家庭での読書習慣の定着を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレット端末の活用により、自分の考えを伝えようとする姿勢は高まりつつある。 ●理由や根拠を明らかにして、意見を発表したり、文章をまとめたりすることができる児童は少ない。 ●主語と述語の関係や段落、接続詞など、文の組み立てを意識して、文章を書いたり、自分の意見を伝えたりすることが苦手である。	①相手や目的に応じて、理由や根拠を明らかにしながら、自分の考えを書いたり、伝えたりすることができる。 ②自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見を取り入れたり、自分の考えと比べたり、まとめたりすることができる。	①-1 思考を深める発問や児童の表現の機会を大切に授業づくりを行う。 ①-2 発表の仕方や話し合いの方法など、話型を例示したり、教室に掲示することで、児童がそれを参考に自分の思いや考えを表現できるように支援する。 ②1日に1回はペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の意見を伝えたり、友達と考えを交流する時間を確保する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○進んで発表したり、学習の「振り返り」を書くことのできる児童が増えてきた。 ●学習の「振り返り」を共有したり、自分たちで次の課題を見つけたりする状況までは至っていない。	①課題に対して自分なりの目標をもち、学習のきまりを守って、主体的に学習に取り組むことができる。 ②目標や課題に対して、進んで「振り返り」を行い、次時への見通しをもって問題解決に取り組むことができる。	①-1 児童が主体的に学習に取り組めるような導入やめあての提示の方法を工夫して、授業づくりを行う。 ①-2 学びのがんばりコーナーを設置したり、家庭学習とメディアのルールの振り返りを実施し、その結果を視覚化したりすることで、児童のやる気や頑張りを評価する工夫を行う。 ②本時の振り返りから、次時へのめあてや問題を児童とともにつくっていくような授業の構想を行う。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

